



学校だより 自主勇往

第 号 令和6年5月16日
発行者：大里中学校
校長 足立 克枝

教育目標：頭をきたえ 心をみがき 体をきたえる 生徒の育成

今の子どもたちは 2100年を生きる！

これから76年後が2100年！子どもたちが生きる未来はどんな世界が待っているのでしょうか？
コロナ禍を経験したように、未知なる出来事や想定外の事態など、予測困難な時代へと突入したことは明らかです。このように予測困難で不確実な今は**VOUCA(ブーカ)な時代**と呼ばれています。これは、英語の**Volatility (変動性)**、**Uncertainty (不確実性)**、**Complexity (複雑性)**、**Ambiguity (曖昧性)**の頭文字からできた造語です。

以下に示すのは、このような未来を生きる子どもたちに育てたい力です。

あらゆる他者を価値ある存在として尊重する心

多様な人々と協働する力

様々な社会的変化を乗り越える力

豊かな人生を切り拓く力

家庭教育の中でも様々な体験を通して「生きる力」が育ちます。
ぜひ、ご家庭でも子どもたちの未来について話し合ってみてください。

全国学力・学習状況調査が実施されました！

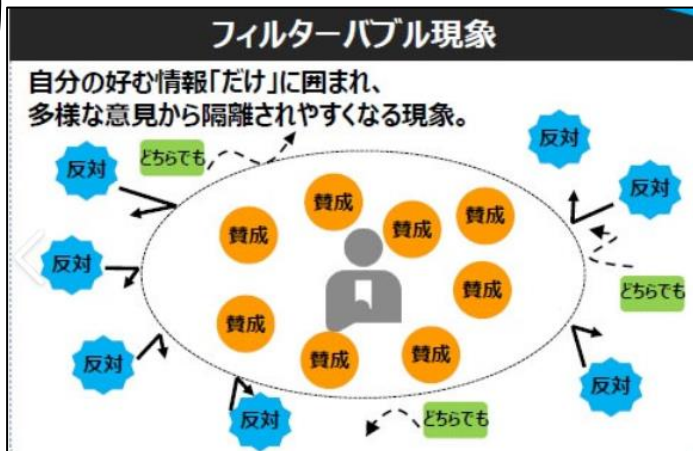
今年の全国学力・学習状況調査が去る4月18日に全国一斉に行われました。
本校では3年生が国語と数学の調査を受け、調査の翌日の授業で自己採点、解答・解説を行いました。調査を受けた3年生は自分の調査結果に興味津々で、真剣に解答・解説に耳を傾けていました。
この学力調査は中学2年生までに、十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容が出題されています。

子どもたちに求められている学力がどのようなものか、是非出題内容を下記URLからご覧ください。
(国立教育政策研究所HP)

<https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

なお、調査結果は文部科学省より個票データとして本人に配布されますので、しばらくお待ち下さい。

「フィルターバブル現象」をご存じですか？



アルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々のユーザーにとっては望むと望まざるにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル(泡)」の中に孤立するという情報環境を指します。

柔軟な思考力を養うためには、多様な価値観や考え方に触れ、多面的、多角的に物事を考える機会が必要です。

スマートフォンに依存するということは、このフィルターバブル現象に陥る恐れがあるということを知っておく必要があります。お子様とも話し合ってみてください。

「フィルターバブル現象」は全国学力・学習状況調査(国語)の設問としても取り上げられていました。